

【授業実践振り返りカード】 7月

学校名	富士見小学校	学年	1 学年
授業者氏名 赤堀万里子			
題材名 「歯の役割を考えよう」			
主 眼<フォーマット> 〇〇について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、〇〇に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、〇〇することを通して（本時の中核的な学習活動）、〇〇する力（育成する資質・能力）を培うことができる。			
主 眼 乳歯から永久歯に生え変わりが始まっている子どもたちが、自分たちの口の中の歯と、肉食動物や草食動物の歯に着目し、比べることを通して、歯にはそれぞれの特徴と役割があることを学ぶことができる。また、役割を意識してきゅうりを食べることを通して、その歯の役割を実感することができる。			
学習材 〇どうぶつの歯のイラスト・お話 〇自分の口の中の歯(下) 〇きゅうり			
成 果 〇自分たちの歯と動物の歯を比べたことで、生き物によって歯が違うことが分かり、牙のような歯の役割や、うすのような平らな歯の役割を、食べ方から考えることができた。そこから自分たちの歯も同様な働きがあることに気づき、役割を意識してきゅうりを食べて実感することができた。前歯の抜けてしまった子が「歯がないから噛み切れないよ。」「歯がないと、歯茎にあたるから痛いよ。」と前歯の大切さを感じていた。			
課 題 〇歯の役割を知った後、単発で終わってしまうのではなく、歯を大事にすることの大切さにつなげていくことが必要。			

【授業実践振り返りカード】

学校名 富士見小学校	2 学年
授業者氏名 高橋 準	
題材名 「歯っぴーチャレンジ週間」(学級の時間)	
主 眼<フォーマット> ○○について学んだ(or 体験した・調査した)子どもたちが(既習や経験)、○○に着目し(健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方)、○○することを通して(本時の中核的な学習活動)、○○する力(育成する資質・能力)を培うことができる。	
主 眼 歯に関する受診率の向上を目指している子どもたちが、自分自身の歯みがきに再度着目し、毎日ふり返ること(チェックシート)を通して、自分自身の歯みがきをよりよくしていくことができる。	
学習材 (本時、子どもに提供する最大の情報:実践家や専門家の話の要点・KYT のイラスト等) ・毎日のふり返り(チェックシートで可視化)	
成 果 チェックシートで「できた or できなかった」が可視化されたため、「できなかった児童」から「明日の昼はやらないと!」という歯みがきをよりよくしていこうとする意欲的な発言があった。 また、終末にはお家にチェックシートを持ち帰り、保護者にコメントを記入してもらったことで、保護者の歯に対する意識向上にもつながったと考える。	
課 題 「みがけばチェック」という児童もいた。自分が決めた磨き方ができたからチェックということが徹底できていなかった。	

【授業実践振り返りカード】 7月

学校名 富士見小学校	3 学年
授業者氏名 星野こず恵	
題材名 「歯っぴーチャレンジ週間」(学級の時間)	
主 眼 1 学期に自分の歯の特徴を知り、自分の歯に合った磨き方を考えてきた子どもたちが、「歯っぴーチャレンジシート」をもとに、歯垢の付き方や4月からの歯みがきの様子に着目し、さらに工夫したい歯みがき目標を決めて歯みがきをするを通して、日々の歯みがきの仕方を振り返ることができる。	
学習材 ・自分の春の歯垢の様子(養護教諭より) ・「歯っぴーチャレンジシート」(振り返りシート)	
成 果 ・養護教諭に示していただいた自身の歯垢の様子だけでなく、前回オレオクッキーを食べたときの汚れ方を思い出して、歯みがき目標を決める子が多く、「歯のでこぼこのところ(とくに奥歯みがき)」「犬歯が汚れやすいから特に磨く」など、具体的な歯みがき目標を決める様子が見られた。 ・1 週間、朝、昼、夜の3回の歯みがきについて考えたので、「朝、もう少し早くおきて、長い時間磨けるようにするために、早くねる」「給食を食べるのが遅くならないようにして、歯みがきをていねいにできるようにしたい」など自分の生活習慣を見返すきっかけにもなった。 ・同時期に、児童会による「鏡磨き」を進めるお話があったので、給食時にかがみを見ながら磨く子が増えた。 ・チェックシートを見ると、ほぼ全員の子が1 週間毎回磨くことができた。	
課 題 ・週間中は、毎日意識して取り組めた子が多かったが、日々の歯みがきの様子を見ると個人差が大きい。習慣化されるように定期的に歯みがきを振り返る機会を設けたい。 ・チェックシートを見ると、平日より休日(特に昼)の歯みがきができにくい様子があった。家庭へもお便り等で実態をお知らせし、意識を高めたい。	

【授業実践振り返りカード】 7月

学校名 富士見小学校	4 学年
授業者氏名 野田 直美	
題材名 「紅林荘の人たちのことをよく知るために交流会を開こう」	
主 眼 町の特別養護老人ホームである「紅林荘」のお年寄りの方々にひまわり油とにんじんを使った歯にいいレシピを考えるために、相手のことをよく知りたいと考えている子どもたちが、お年寄りの方々の反応や紅林荘の職員の方々の対応の仕方に着目し、好きな食べ物を聞いたり、歯のことに関係のある遊びをしたり、パタカラ体操をする意味やよさを伝えながら実際にやってみたりすることを通して、ペアになったお年寄りの方のことを知ることができる。	
学習材 ・ お年寄りの方々の反応（様子や言葉） ・ 紅林荘の職員の方々の対応の仕方 （耳の遠い方への話しかけ方、手先があまり動かない方への対応の仕方など）	
成 果 ・ 紅林荘の職員の方との事前の打ち合わせで、お年寄りの方々がおやつを楽しみにしていることや、自分たちで作って食べることも大好きであることを教えていただき、子どもたちに伝えると、「自分たちで考えた歯にいいレシピをお年寄りの方々と一緒に作って食べたい」という願いが生まれた。 1回目の交流会で、ペアになったお年寄りの方から好きな食べ物を聞いたり、一緒に遊びながら相手に伝わる話し方を工夫したり、手先がどのくらい使えるのかを知ったりしたことは、今後のレシピづくりやおやつを一緒に作る上での大切な学びとなった。 ・ お年寄りの方々へゲームのルールやクイズの内容は一度では伝わらず、何度も言葉をかえたり、表情を見たり、身振り手振りをつけながら説明したりする子どもたちの様子が見られた。中には耳の遠い方もおり、紅林荘の職員の方がかなり耳元の近くではっきりと伝えている様子を見て、何とかコミュニケーションを図ろうと真似する姿も見られた。おやつづくりのときにも同じペアの方と作ることで、お互いに安心して楽しく歯にいいおやつづくりに取り組むことが期待できる。国語の学習にもつながる学びになった。 ・ パタカラ体操は毎日おやつの前に施設で行っているようであったが、子どもたちが「ぱ」「た」「か」「ら」の発声の意味や効果を伝え、「一緒にやってみましょう。ぱ・ぱ・ぱ・ぱ・ぱ」と呼びかけると、よく聞いて積極的に口を動かすお年寄りの方が多く見られた。子どもたち自身も、普段以上に口や舌の動きを意識して取り組む姿が見られ、お互いに相乗効果を生む活動となった。 ～子どもたちの感想より～ ・ 僕のペアの〇〇さんは、好きな食べ物を聞いたときに、「トマト」と答えたから、ふつうの食べ物でも大丈夫かなと思ったけれど、「固い食べ物はダメ」と言っていたから、やっぱり食べやすくした方がいいかも。スポンジのザラザラしたところは痛いかなと思ったけれど、全然平気そうだった。 ・ 最後に、笑顔で「また来てほしい。楽しかった。」と言ってくれてうれしかった。次も歯に関係のあるゲームの準備をたくさんして、紅林荘の人たちに喜んでもらいたい。耳が遠い人がいて、しっかり話すことが大切だと思った。歯のクイズを簡単に解いていたから、もう少し難しいクイズにしたい。 ・ 私が分からないときに、紅林荘の人が耳の近くで話していてそのおかげで、私も耳の近くで話すことを知って近くで話せてよかった。このことを活かして2回目の交流会でもっと相手のことを知りたい。 ・ パタカラ体操のときには、うまくパタカラができていたから、このまま続けてほしい。でも、追いつけない人がいたから、もう少しのんびりやってもらいたい。紅林荘の人たちと安全に、歯にいいものを作って食べてもらいたい。	
課 題 ・ 子どもたちの話す速さやパタカラ体操の速さに課題が残った。お年寄りの方々に合わせた速さを意識したい。 ・ 歯と口の健康にちなんだ遊びを通してお年寄りの方々のことをよく知りたいと考えているが、遊びを通して分かったことと、レシピやおやつづくりが結びついていない児童もいる。交流会で分かったことがレシピやおやつづくりの場面でどう活かそうか、全体できちんと共有するようにしたい。	

【授業実践振り返りカード】 7月

学校名	富士見小学校	学年	5 学年
授業者氏名	千野 孝幸		
題材名	「健城先生に聞きたいことを考えよう」		
主 眼<フォーマット>	〇〇について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、〇〇に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、〇〇することを通して（本時の中核的な学習活動）、〇〇する力（育成する資質・能力）を培うことができる。		
主 眼	各テーマごとに調べたことをまとめた子ども達が、小さい子を持つ保護者に向けてのプレゼンを考えるには何が必要か足りないかという視点に着目し、自分たちがまだ分からないことや知りたいこと、健城先生に聞きたいことを明らかにすることを通して、2学期からの自分たちの活動の見通しをもつことができる。		
学習材	（本時、子どもに提供する最大の情報：実践家や専門家の話の要点・KYT のイラスト等） 前時、テーマ別にまとめたスライド		
成 果	・ 前回ただ調べた、まとめただけになってしまいがちだったものが、もう一度自分たちが目指しているめあてや目標を確認したことで、子ども達が今後の活動の見通しを持てた。		
課 題	・ 2学期明けた後の学習をどのようにしていくのか、教師が計画をしっかりと立てていく必要がある（推進ノートを中心に進めていく予定）。また、部会や養護教諭のアドバイスを参考に進めていきたい。		

【授業実践振り返りカード】 7月

学校名	富士見小学校	学年	6 学年
授業者氏名	森下侑也		
題材名	「歯っぴーチャレンジ 歯みがきの仕方を見直そう」		
主 眼<フォーマット>	〇〇について学んだ（or 体験した・調査した）子どもたちが（既習や経験）、〇〇に着目し（健康教育や食育との教科等横断的な学習に係わる見方・考え方）、〇〇することを通して（本時の中核的な学習活動）、〇〇する力（育成する資質・能力）を培うことができる。		
主 眼	春の歯科検診で歯垢のつき具合を調べた子どもたちが、自分の歯の現状を知って自分の日頃の歯みがきや生活に着目し、どんな磨き方をすればいいか 1 週間の歯っぴーチャレンジの目標を立てることを通して、今後の歯みがきの仕方について見直し、よりよい歯みがきをする習慣を身につけることができる。		
学習材	（本時、子どもに提供する最大の情報：実践家や専門家の話の要点・KYT のイラスト等） 歯っぴーチャレンジシート 春の歯科検診での自分の歯垢の様子		
成 果	給食の時間に自分の決めた目標で磨こうと取り組む児童が増えた。 保護者ともシートを共有できたことで、家での歯みがきの様子も向上したと感じる児童がいた。		
課 題	お家の方になかなか見てもらえない人は、シートの提出がない日もあり、改善がみこめなかった。 チャレンジが終わった後、また給食の時間に磨かなくなった児童がいた。		